

# 佐賀の乱 武雄ゆかりの人

武雄市歴史資料館

## 佐賀の乱(佐賀戦争)150年企画展

# 佐賀の沸騰 武雄の葛藤

## ～出兵か、拒絶か～

観覧料  
無料

2024年は佐賀の乱(佐賀戦争)から150年という節目の年です。本企画展では、出兵か拒絶かで揺れ動く武雄の葛藤と決断を、資料とともに紹介します。

**会期** 1月27日(土)～2月25日(日)  
**観覧時間** 〈日曜～木曜〉9:00～17:00 / 〈金曜・土曜〉9:00～18:00  
**会場** 武雄市図書館・歴史資料館 蘭学・企画展示室  
**休館日** 会期中無休



A



A 後藤保明肖像写真(個人蔵)  
B 近世四戦紀聞(武雄市)  
C 皇国一新見聞誌(武雄市)



C

ギャラリートーク 2月3日(土)・12日(月・振替休日)・17日(土)  
(全3回) いずれも14:00～

観覧料  
無料 佐賀県立佐賀城本丸歴史館

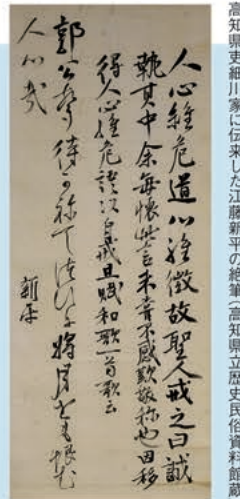
## 没後150年特別展 江藤新平

「人民のために」という信念を貫いて明治日本の新たな国家づくりに尽力した江藤新平の功績を、映像展示や歴史資料展示により紹介します。



江藤新平が着用していた羽織(佐賀県立佐賀城本丸歴史館蔵)

**会期** 3月15日(金)～5月12日(日)  
**観覧時間** 9:30～18:00  
**会場** 佐賀県立佐賀城本丸歴史館 外御書院・御小書院(特別展示室)  
**休館日** 会期中無休 ※会期中に資料の展示替えがあります



高知県史細川家に伝来した江藤新平の絶筆(高知県立歴史民俗資料館蔵)

鍋島茂昌(しげはる) 1832～1910

### ● 武雄を率いる茂昌

最後の武雄領主。父の鍋島茂義と同じく西洋科学の導入を進めました。また、長崎御仕組方の頭人として、ロシア使節プチャーチンなど外国船の長崎来航に対応しました。1868年に始まった戊辰戦争では、長年重ねた西洋軍備の研究・訓練が認められ、武雄軍団を率いて秋田方面の戦闘に参加。最新兵器を要する武雄軍団の働きは、敵・味方を問わず人々を驚かせました。

### ● 佐賀の乱での茂昌の葛藤

佐賀の乱では、茂昌は佐賀士族側に味方することを期待されてきました。武雄は江戸時代を通じて佐賀藩の支配下にあり、戊辰戦争での活躍も大きく評価されていたためです。また、茂昌は乱の首謀者である島義勇とは従兄弟の間柄でもありました。当初は拒否していましたが、再三の強い要請を拒否できず、64名の兵士を出兵させます。この時期、茂昌は非常に微妙な立場に立たされてきました。



### ● 武雄から世界へ

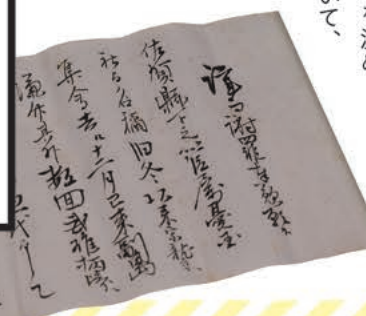
武雄領家臣の家に生まれた尚芳は、15歳の時に長崎に行き、西洋の学問や言語を学びました。幕末の政治状況の中で薩摩藩や長州藩の武士と交流し、早くから明治新政府に参加しました。1871年には、岩倉具視を全権大使とした岩倉使節団の全権副使となり、約1年10か月に渡り各国を歴訪しました。

### ● 佐賀の乱での活躍

使節団が帰国した後、政府内で対立が起きますが、尚芳は政府に残ります。佐賀の乱が発生すると、政府の命令で長崎へ向かい、政府側に参加することを決めた武雄の兵などを率いて、乱の鎮圧に当たりました。また、佐賀士族側にも兵を送った武雄が、戦後赦免された背景にも山口尚芳の奔走がありました。



山口尚芳(なほしげ) 1839～1894



謹而謝罪奉歎願候 (武雄鍋島家資料 武雄市)



## 範蔵祭りが開催されました

1月12日(金)、郷土の偉大なる先駆者「山口尚芳」の功績を称える範蔵祭りが武雄町花鳥区で行われました。今年も山口尚芳没後130年の年であり、玉垂神社そばにある尚芳の墓前で法要が行われ、その後、儀式と講話が行われました。尚芳の命日は6月12日ですが、農家が多い花鳥区は繁忙期であるため、毎年1月12日に開催されています。尚芳の生家跡(旧花鳥公民館)には、昭和5年に記念碑が建立され、今でも地元の方々に大切にされています。



若い世代の皆さんにも、山口尚芳の功績と範蔵祭りを語り継いでいきたいです。



花鳥区長 中尾 壯三さん